【随　筆】

話題の多い季節です

住　吉　　尚
（釧路支部）

厚岸でヒグマによる不幸な事件が起きてしまいました。毎年春になると山菜採りに山に入る人が多くなるので、クマには注意するようにとのニュースが流れますよね。「音を出すのが良い」とか、「複数で山に入れ！」とか言われますが、今回は親グマが人間の近づく気配に興奮して寄って行ったと思われる状況があり、クマとの遭遇をどうやって避けるのかの難しさを語っているようです。４月初めはまだまだ山菜も少なく、半年絶食して冬眠していたクマは空腹ですから、ただでさえ興奮しやすい時期です。冬眠穴の近くに死んであまり時間が経っていない子グマの死体があったとか。私は過去にたくさんのクマの繁殖を見てきました。もちろんですが野生ではなく飼育下でのことです。子グマが死亡することが多いのは、生まれてすぐが一番です。次に多いのは母乳からクマが普通に食べている固形物に切り替わる頃で、６月になってからでしょう。この時期は子グマが活発に活動するため迷子になったり、雄グマが雌親に交尾を迫って子殺しが起きたりします。今回の例では母乳を飲んで３カ月ぐらい経っているでしょう。この時期に子グマが死ぬことはまれで、考えられる死因は母乳不足でしょう。となると親グマも栄養不足でガラガラと言う感じでしょうか。ここからは私の勝手な想像です。親グマは若い雌、３歳か４歳。まだ子育てをした経験がない個体で、冬眠に入る前の栄養の蓄積が足りないまま出産を迎えた。やっと子育てを始めたが、自分の栄養が冬眠明けまでやっと維持できるかどうかの状態まで消耗した。それで子グマが母乳不足で死亡。親は自分の栄養不足のこともあり、いら立っていたので事故になった。こんな想像です。このクマは現場の状況から偶発的な事故で殺処分は酷との判断でしょうか、執行猶予だとか。現場は厚岸町の末広地区あたりでしょうか。でも、もうその近くにはいないと思います。雌グマですから行動範囲があまり広くはありませんが、それでも厚岸湾の東側で花咲線の南、霧多布湿原ぐらいまでの間が行動範囲と考えられますから、末広から離れているからと言って、鯨浜やコマドリ林道に入るのは控えた方が良いと私は思いますよ。とは言え、

ゼニガタアザラシの漂着死体

ギョウジャニンニクには強い人気がありますよね。ただ毎年のように死人が出ていますから特段のご注意を。

こんなことを考えながら走っていると、後静でゼニガタアザラシの漂着死体を見つけました。クマ事件のニュースを聞いた後でしたから、腹をすかしたクマがこんな漂着死体に寄ってこなければよいが、と思いながら通り過ぎました。話は変わりますが、末広と言う地名を見てマビロとすぐ読める人は厚岸周辺の人だけでは！。私もマビロと読むということを知ったのは釧路に住んでずいぶん経ってからのことです。ちなみに後静はシリシズと読みますが、最近のパソコンは良くできていてマビロでもシリシズでも簡単に漢字変換されますね。

浜中町に「T73」と言うタンチョウがいました。私がタンチョウの標識調査に参加するようになってからずーっと長い付き合いになっていたタンチョウです。このタンチョウは大変繁殖成績が良く、毎年ヒナをほぼ確実に育て上げてきました。そのため、標識を装着する捕獲作業もほぼ毎年のようにやって来ていました。そしてその子供たちもたくさんのヒナを育てている優秀な家系です。足輪が付いているということはヒナの時に捕獲された経験があるということです。この個体は1994年に根室管内で捕獲された雄で、冒頭に「いました。」と過去形で書いた通り、ごく最近ですが死亡が確認されたのです。私がタンチョウの捕獲作業に携わってから最初に自分で捕獲したヒナがこの家族のヒナの１羽で、2009年７月12日のことです。古い堆肥山の頂上付近のヤブの中で座っているヒナを見つけた時は大変興奮したものでした。こんなこともあり、毎年繁殖期には良く観察に出かけていました。今年も４月初めに見に行きました。その時は２羽が小さな池のほとりで何やら巣作り場所の相談をしているような感じがしました。それで、巣作り場所の選

在りし日のT73の家族

定に余計な影響を与えないようにと、早々に立ち去りました。その数日後のことです。「あのタンチョウが死んだんですよね！」との話を聞きました。「数日前に見たばかりですが？」と言うと「ばらばらになった死体が見つかり、幸い足輪が付いていた方の足が残っていた」。そして死後時間が経ったものだと言います。では私が見たタンチョウには足輪が付いていなかったのか？大急ぎで現場を離れたので全く分かりませんでした。それから10日ほど経ってからです。同じ場所に行ってみました。そしてまたしても２羽のタンチョウが前回見た所と変わらない場所にいるのが見えました。１羽は池の中で水浴びをしています。もう１羽は一段高い牧草地の縁で水浴びをしているタンチョウを見ています。池の中のタンチョウは前からいる雌でしょう。私が見ているのを意識しながら水浴びをしています。人間ならずいぶん色っぽい場面ですが相手はタンチョウ。私の見た感じですから何とも言えませんが、新しい雄を値踏みしているように見えました。人間が近くに来ても水浴びを止めない雌は、雄が人間に対して威嚇的な行動をとることを求めていたのかもしれません。これが本当なら、あまりに気の弱い雄だと振られるかもしれませんね。とは言え、つがいの片方が死ぬとほとんど時間を置かずに求婚されるのがタンチョウの世界です。これは繁殖縄張りを持ち、実際に繁殖活動ができているタンチョウが、タンチョウ全体の３割程度の状態であるためです。これは足輪を付けたタンチョウの観察記録から判ってきています。そのため繁殖縄張りを持つタンチョウは、雄であれ雌であれ求婚者が殺到するほど持てるのです。これはツル公園の柵の中のタンチョウが野生個体と簡単につがいができることからも判りますね。野生個体がいくら広いとは言え、人工の柵の中から出られないタンチョウに平気で求婚するのですから。こんなことも足輪を付けたタンチョウの記録から判ってきました。足輪付けも、もう少し頑張らなくっちゃー。

ある日、国道272号を走っていました。前を行く大型トレーラーが急にヨレヨレと蛇行したようで、オヤ！と思ったら、白い動物の死体が！。幸い対向車がなかったので私も死体を避けて走りました。でも私の後ろにも何台もの後続車がいるのでそのまま走り抜けました。白いこと、タヌキほどの大きさであること、大きな足が見えたこと、などから死体はノウサギでしょう。北海道に棲む野生のウサギを正確にはエゾユキウサギと言います。皆さんはペットショップなどで家畜のウサギを見たことがあるでしょうが、この家畜化されたウサギは日本に住むノウサギとは全く違う動物です。家畜のウサギはアナウサギと言う土に穴を掘って暮らすウサギを改良したものです。穴の中を移動するため足があまり長くはありません。そして生まれてくる子供は目も開いておらず、毛も生えていません。でも日本に住むノウサギは足が大変長く、子供は生まれた時から目が開いていて、毛も生えています。足が大変長いのでとても速く走ります。生まれてすぐの子供たちも走るのです。そして土に穴を掘ることもありません。そしてもうひとつ。家畜のウサギは毛皮と肉をとるために家畜化されましたが、ノウサギの毛皮はとても薄く弱いので毛皮には向きません。昔話に因幡のシロウサギのお話がありますね。このシロウサギは皮をむかれて赤裸になりますね。これはノウサギの特徴で、キツネなどに背中を噛まれても簡単に皮が破れて本体だけでも逃げようという作戦です。この破れた皮がその後簡単に再生するのか？までは知りませんが、ガマの穂綿にくるまって治ったというお話ですから、再生が比較的早いのでしょうね。ウサギにはもうひとつ大きな特徴があります。これは普通に見る糞とは別に盲腸便を排泄します。こちらは全て自分で食べてしまうので見ることはありません。これはナキウサギでも家畜のウサギでもノウサギでも同じです。ナキウサギではこの糞を日当たりの良い岩などにくっつけて、乾いてから食べると言いますが私は未だ見たことがありません。ウサギ類はこの盲腸便を食べないと死んでしまいます。消化が難しい植物を食べる動物では、牛の仲間が一番進化していて、本当の胃袋の前に発酵させるための大きな袋があり、良く発酵させてから本当の胃袋に行くようになっています。これは胃袋から胃酸が出て発酵が抑えられるため取られた特別な進化です。馬やサイなどでは小腸で胃酸が中和された後、盲腸で発酵させるのですが、その後ろにある

エゾユキウサギ

大腸はせっかく発酵させてできた栄養分を充分吸収できないまま糞として出してしまいます。ウサギの仲間はこれを再度食べることで、食べた草の栄養分を無駄なく吸収しているのです。写真は2013年４月29日に国道44号で見たエゾユキウサギの死体です。未だ白い毛が多いですが、下から茶色い毛が生えてきているのが判りますね。ゴールデンウイークが終わり少し経った頃、全身が茶色になります。でも夜行性ですから見ることはあまりないでしょうね。

４月は暖かな日が多かったため、今年のゴールデンウイークはどんなに良い日になるだろうと思っていましたが、意外なことに気温が低く天気も曇り空で、ぱっとしない日が続きましたね。それでも道内では釧路は最も良い方だと言います。札幌・旭川より気温が毎日高いというのですから、釧路地方以外は寒い上に雨が多く、がっかりなゴールデンウイークになってしまったようですね。５月３日に郊外の湿原に行ってみました。車を止めると道路の両側からウグイスのさえずりが！。道路を隔てて競い合ってさえずっていました。林の地面にはミズバショウの花も咲いて、ここは春爛漫と言ったところでした。４日は風が強く釣りはあきらめて、近郊のタンチョウの様子を見てきました。ただこの日の内陸側は雲が多く、気温が低かったためでしょうか、タンチョウは草の中に座っていてヒナがいるのやらいないのやら、全く分かりませんでした。観察もさっぱりでしたので午前中に帰りましたが、釧路市内は日が射して暖かく、我が家のチシマザクラも開花宣言ができました。４日に開花したこの桜は７日には満開となり、10日には散り始めました。ところでウグイスはウグイス色ではない、と言うことを知っていましたか？ウグイスは薄い茶色で全く緑がかってはいません。所謂ウグイス色の小鳥はメジロです。でもメジロは釧路では珍しく、私も釧路に来てから数回しか見たことがありません。ウグイスは低いブッシュの中で鳴いていることが多く、見つけることができても写真に撮ることが難しく、私は未だに「これがウグイス」と言う良い写真が撮れていません。普通にいる鳥でも、写真に撮るのが難しい鳥も多いのです。特に小型の鳥では、私が見つけるより先に鳥の方が私を見つけて逃げ出しますから、写真に撮るのは大変です。しかも木の葉が広がるとさらに見つけるのが難しくなりますから、５月中が写真の撮り時です。と言うことで、別保の森林公園に野鳥を見に出かけました。私が出かけた日はなぜか小鳥が少なくがっかりでしたが、尾根筋でシマリスに出会いました。私を恐れる様子もなく、ちょこちょこ林道を進んでいきます。ご存じでしょうがシマリスは冬眠をします。そして冬眠から覚めると、早速繁殖行動に移ります。雄は良く通るちょっと寂しげに聞こえる声でコー・コー・と雌を呼びます。私がこの日に出会ったシマリスが雄だったのか雌だったのかは分かりませんでしたが、盛んに餌を探して食べていましたから、栄養を付けて繁殖に

林道で出会ったシマリス

コマドリの雌

備えるのでしょう。さらに歩いていると、小川の縁の倒木にコマドリが止まるのが見えました。早速写真に撮ってみると、どうやら私が普段見ているコマドリとは違うようです。写真を拡大して良く見ると、この個体は雌のようでした。いつも鳴き声を頼りに探しますから、雄ばかり見ていたのですね。雌は雄のようにさえずりませんから、目立つところには出てきません。この個体も小川の縁のヤブに入って言えなくなってしまいました。

［五七五］

宣言も三たびとなりてのどかなり

鰊焼くじっと赤目に睨まれる

［七言絶句］

再三　戦略

隔日在宅勤務中　角打酒店飲中断

回線混雑接続休　店昼開主人客談

画面凍結増苦痛　磁力吸引力絶大

大瓶麦酒次焼酎　量売購入幾千万

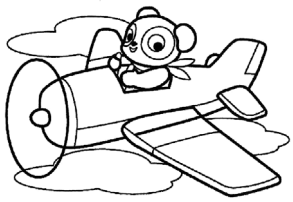
（札幌市　頑黒和尚）

〈句題〉　鴉の仔

「鴉の仔生存競争口全て」

「鴉の仔慈母は神風特攻機」

「鴉の仔雛の餌にと鴎舞ふ」



（室蘭市　白波瀬　稔歳）